

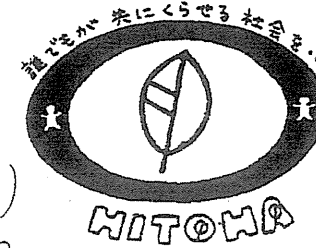
2023年(R4年)



No. 379

ひとほふくしん

(題字: 三井 裕森)



社会福祉法人 ひとほ福祉会
〒739-1203
広島県安芸高田市向原町長田1857番地
TEL(0826)46-2960 FAX(0826)46-4355

(ホムホ-ジアド) http://hitoha-fukushi.com (メルアド) honbu@hitoha-fukushi.com

「ひとほ」とは... 大きな樹も、一枚一枚の葉がそれぞれの役割を果たしてこそ大きな樹となるように、私たちの社会も人それぞれが自分の役割を果たすことによって、社会を構成します。それは〜(続きは自生P40にて)

ひとほ福祉会に入って2〜3日目にひとほの名前の由来を寺尾川順子さんに教えていただいた。施設や会社の名前には、理念や社訓がギュッと詰まっていることが多いなと思いつつ、自分ほどどんな役目があるのだろうかと思ったことを覚えている

それから十数年、落葉が舞いこの時期月にひとほの意味を何度か思い返すことがある。同時に、20代の頃落葉を見ていた際、人生の先輩から落葉は新しい芽に「これから頼むよ」とバトンタッチをして、次の役目を果たすため木から落ちていくと教えてもらったことを思い出す。私達にはどんな役目があり、どんなやり方でバトンタッチをして次のステップに行くのか。

そんなお話を文尚さんとしてみたかったな...と思いつつ『自生〜寺尾文尚遺稿集』を読み直す。お茶を飲みながら読み進めると、文尚さんと話しているように思え、文に領き、写真に胸が熱くなる。そこには支援方法

や生き方の答えが書いてあるわけではない。「あなたは どう思う?」という声がか聞こえてきそうだ。

(共同ホームひとほ・ひとほ作業所 井上美恵)

自生〜寺尾文尚遺稿集を読んで

文尚さんの優しさ強さ想いが胸に響きました。
出会えた時からずっとそうです。
南部 孝美 (旧スタッフ)

ページをめくる度に泣ける。
すばらしい友の言葉を支えに 残りの人生を生きてゆきます。
編集ありがとうございました。
神田 真弓 (似島学園同僚)

「元就の聖リレーマラソン」

金木犀の香る季節、吉田運動公園にて「絶対に負けられない戦い」が訪れた。コースの全長は1キロ、3時間でチームが何周走るかを競う戦いだ。ひとほチームはきらら3名、職員12名で挑む。安芸高田市内外から全37チームの出場。



チームユニフォームは15名のきららに1枚ずつデザインしてもらった。

「走る展覧会」というサブタイトルを設けて戦うことにより、15名の選手の背中に15名のきららの気持ちが入り、倍の力を発揮することが可能になる。良い作戦だ。

開始直後は陸連チームの走りのすばしさに驚かされたが、我々も自分たちのペースでリズムを作り、決して負けてはいない走りだった。タスキをつないだ後は、ひとほ応援団が用意くださったおにぎりを頼る。「どこを走ったら良いのか?」「誰にタスキを渡したら良いのか?」そんな走る前の不安はなんのその。疾風の如くそれぞれが走り去り、落ち葉の如く舞い戻ってタスキをつないだ。(リレーマラソン参加者 青山直樹)

「あいサポートアート展 鑑賞」

ひとほだけじゃない、他の作業所の作品も観て、描きたいなって思ったのもあったし、すごいなって思ったのもあった。絵もあったけど、習字とか刺繍とかもあって、城崎さんと「いいね!」って話した。私はきりんの絵を展示しました。紙に大きく描くことを教えてもらって描きました。(就労センターあっぷ 迫田 祐子)

チューリップの絵を描きました。

[展示で何か印象に残ったものがありますか?] わしのが良かったと思いました。(ひとほ工房 田丸 信二)

「井上陽水の少年時代を思いながら…」

ひ

くらむぼんの子も達は、厳しい暑さにも負けず、より熱く燃えた日々を過ごした。一番夢中になったのは魚とりであった。来る日も来る日も、空の状態をみながら網をかついで出かける姿はまるで漁師の意気。近くの用水路に行き、魚の居場所探しから始め、とり方は日に日に上達した。部活で通りかかった中学生から「何がとれるん？」と声をかけられたり「ゴミを片付けて帰ってね」と公共の場でのマナーを教わったりした。99歳の川に生きる生き物を知り、名前を覚えた。真黒に日焼けした子ども達のこの体験は、きっと大きな実りとなっていることだろう。

(くらむぼん 竹田 佐代子)

は

「めざすはぬくもりのある暮らし」

水附美江さんと立野は同じ年です。ホームで、休日に洗濯物をたたみ、脱衣場へ用意するのは美江さんの役割になっています。

立野は玉ねぎが食べられないと会話すると、美江さんも苦手な野菜があり、でも調理で工夫してくれるスタッフの気持ちに応えようとしていることが分かりました。

の

また、私の家族のことを聞いてくれたりと美江さんからの思いやりを感じます。そんな

ぬくもりを一つ一つ増やしていきたいと思えます。(共同ホームひとは「美江さん、リレーマラソン お疲れ様!」)

(共同ホームひとは 立野 兵治)

「佳穂さん」

日

今年からひとは黒に入った谷本佳穂さん。当初は一回り以上離れている先輩たちと一緒に作業するのに不安や緊張の面持ちでした。ただ、1か月もすればすでに黒の中心になっような存在感を出しています。彼女はアート活動中心に行い、今では自分で1日何をするかを組み立て、自分で準備をして、教えてもらったり、自ら見たものを工夫しながら実践してみようという姿勢です。まだ入って半年ですが、その積極的な姿勢は見習いたいと感じます。そして、これからどんな表現を見せてくれるのか楽しみな佳穂さんです。

(ひとは工房 松本 拓也)



平成28年度 ひびきあう改訂版

田中 秀典

「おかあちゃん≒AKB48」

うんぱん

(字三上潤子)

「田中さん、これ観といてね」ひとは会の河野さんより1枚のDVDを渡されました。「まさか!」とは思いましたが、やはり人間ホール用の“恋するフォーチュンクッキー”だったのです。以前より、話はされていたものの私が…(58歳だし)、しかし河野さんの眼差しは本気のようなのです。たじろぎながら「まー、預かっておきます」と答えてしまったのでした。

数日後、「田中さん観た?来週練習よ」と来られたもんで、また、たじろぎながら「嘘でしょ」と答えるしかありませんでした。その夜、家族が寝静まった後、そっとDVDを観ました。「出来る訳ないじゃん」と思いながら立ち上がって、振りまねをし始め、少し赤面しながら…(妻よ、娘よ起きて来るでない)やはり良い曲だよな…♪未来は、そんな悪くないよ Hey!Hey! Hey!♪と歌っているしな…。

練習日、ひとは会の錘々たるおかあちゃん方が揃っておられる。「いよいよ本気なんだ」と改めて覚悟を決め、ただただ、流れに沿って、恥ずかしいとか言っている場合ではない…みなさん本気なんだ!AKBに成りきっているぞ!Tシャツもフリル付きの被り物も似合っているぞ!「やるしかないか!」と「おかあちゃん≒AKB48」のステップに合わせて踊りだしました。うむ!もしかして、楽しいかも…!

この様な光景を数度繰り返し“人間ホール”本番となる訳です。当日は、寺尾さんも加わられ、メンバーが更に強化され、ステージを盛り上げることに大いに貢献したことでしよう。まるで、お笑い芸人のような雰囲気ではありましたが。

私達が学ぶべきは、おかあちゃん方の「洒落た遊びどころ」です。更に、自分が一生懸命に楽しむということです。そのことが、「ひびきあう」ための最良の手段であろうと実感させていただきました。AKB48が歌っています。

♪♪ツキを呼ぶには 笑顔を見せること Hey!Hey! Hey!♪♪

佳穂さん デザインのTシャツ



編集後記

あとスタッフとひと(工房)のことについて話す機会が、た。通信は毎月(30部)届りして、安芸高田市内だけで(工房)、な島市や県外の後援会員に届けていると言います。「自分が所属している部署で配達していきなだけ(おと30部)か」と思っていたら、と言われた。郵送分の通信(作業)のきららを中心に作り、封筒入れし、宛名シールを貼りと準備をしています。「毎月の通信にきららの絵を絵手紙の土いに入れたらどうですか」とアイデアももら、(2)同じひと(工房)にも、知らぬこと(工房)。(99内 泉美)